

# 令和8年度 学力向上のための重点プラン【小学校】新宿区立落合第六小学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月7日】

授業作り	重 点	友達との関わりの中で児童が自ら考え、表現できるような指導内容の工夫を図る。 ICT機器などの活用を通して、個別学習への深まりを目指す。
環境作り		集団指導体制を導入し、質の高い授業を行うことにより、児童が主体的に学び合う場と機会の設定を行う。さらに、特別支援教育、ユニバーサルデザイン、個別学習の視点を取り入れた環境作りを行う。

## ■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的な国語力を確実に身に付けさせる。</li> <li>人との関わり合いの中で伝え合う力や思考力・想像力を身に付けさせる。</li> <li>加法及び減法の意味について理解し、正確に計算できるようにする。</li> <li>数についての感覚、量とその測定についての感覚、図形についての感覚を豊かにさせる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>正しい姿勢と持ち方で、文字を丁寧に書く力を身に付けさせる。読み聞かせや、読書活動の充実を図る。</li> <li>話す型、聞く姿勢の徹底を行うとともに、ペア学習やグループ学習など友達と関わる時間を充実させる。</li> <li>計算スキルやプリント、計算カードを活用し、反復学習を行う。</li> <li>視覚を意識し、具体物や絵を提示するなど、体験的な授業を展開する。</li> </ol>
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙を増やし、表現力・文章力を高める。</li> <li>人との関わり合いの中で、伝え合う力や思考力・想像力を身に付けさせる。</li> <li>加法及び減法の筆算を定着させ、かけ算の学習を確実に身に付けさせる。</li> <li>数についての感覚、量とその測定についての感覚、図形についての感覚を豊かにさせる。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1つの授業に2～3くらいの活動を取り入れ、集中力が続くようにする。</li> <li>「話す・聞く」トレーニングとしてペア学習やグループ学習を設定する。</li> <li>考えたことや思ったことを文章化する機会を増やす。</li> <li>読み聞かせや読書など文章に親しむ機会を増やす。</li> <li>デジタルドリルやドリル、練習プリント等による反復学習を行う。</li> <li>具体物や絵、表などを取り入れた視覚的にもわかりやすい授業を行う。</li> </ol>
3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>新宿区学力定着度調査では、教科総合の結果、国語と算数ともに区平均より1.6～2.0pt上回っていた。しかし、領域ごとに見ると、国語では「話すこと・聞くこと」「書くこと」、算数では「測定」の領域のみが区平均よりも1.4～1.7pt下回っていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>言語活動のアウトプット（話す・聞く・書く）を授業の中で、意図的に多く取り入れて経験量を増やしていく。</li> <li>長さ、重さ、かさ、時間について適切な単位を選び、正しく測り、説明できるように量の感覚を育てていく。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>話す時は、理由を付けて話す習慣を付けさせる。</li> <li>聞く時は、最後まで聞いてから要点を言えるように意識させる。</li> <li>書く時は、「はじめ・中・終わり」の順序立てた組み立てて文章を書くように意識させる。</li> <li>「触る」「測る」「比べる」の体験活動を授業の中に意図的に取り入れて生活と結び付けていく。</li> <li>トレーニング的に「見当」→「計測」→「正解」→「単位変換」を授業の導入等に取り入れる。</li> </ol>
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>新宿区学力定着度調査では、区平均並みの正答率であるが、書くことについて課題がある。</li> <li>要約や物語文の読み取りの力の向上が必要である。</li> <li>思考力・表現力を高める機会を意図的に設ける必要がある。</li> <li>数を多様な見方で捉えたり、図形の特徴を正しく理解したりする力の向上が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>語彙を増やし、主述関係や文末を意識した表現力・文章力を高める。</li> <li>内容の中心やまとまりを考えた整理が必要である。自分の考えをもち、明確に発表できる力を育成する。</li> <li>校内研究の取り組みを通して、思考力・表現力を高める機会を意図的に設定する。</li> <li>計算の意味を理解させたり問題場面を絵や図を使って説明させたりするなど、多様な見方で捉える力を高める。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>思いや考え、予想などを文章化する機会を意図的・計画的に取り入れる。</li> <li>辞書を活用し言葉調べの習慣を付ける。</li> <li>ペア学習やグループ学習の機会を意図的、計画的に授業に取り入れる。</li> <li>個人の習熟度に合わせたデジタルドリルを活用する。</li> <li>教科書の教材と関連した並行読書を行う。</li> </ol>

			⑥数直線などを活用して順序良く考えさせる指導を繰り返し、数を多様な見方で見る力を育てる。
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査の結果によれば漢字・語句・計算などの基礎・基本はおおむね定着している。</li> <li>・国語においては書くこと・記述問題・説明的文章の正答率が低い。</li> <li>・算数においては図形や式による説明・活用問題の正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎基本の定着</li> <li>・根拠を基に考えを説明する力の育成。</li> <li>・思考過程を言語化する力の養成。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①語彙力の向上のために辞書を活用し言葉調べの習慣を付ける。</li> <li>②自分の意見や考えを仲間に話したり、説明したりする力を向上させるためにペア学習やグループ学習の機会を意図的、計画的に設定する。</li> <li>③基礎・基本の定着のための個人の習熟度に合わせたデジタルドリルを活用する。</li> <li>④表現力の向上のために教科書の教材と関連した並行読書を行う。</li> </ol>
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査の結果においては、漢字・語句・計算などの基礎・基本はおおむね定着している。応用問題における正答率が低い傾向にある。</li> <li>・国語においては、記述問題に苦手意識が見られる。自分の考えを文章で適切な語句を使って表現する力を伸ばす必要がある。</li> <li>・算数においては図形や、文章題における正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・積極的に学習に取り組む児童が固定化されており、学習意欲にも差がある状態である。全員が学習に参加できる授業内容の工夫を行う。</li> <li>・読解力を身に付け、自ら自分の考えや思いを正しく文章に表す力を身に付けさせる。</li> <li>・図形の性質を実感的に理解できる授業づくりを行う。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①全員が自信をもって発言できる環境を整え、話をきちんと聞くことのできる態度の定着を図る。</li> <li>②読書の励行、各教科を通して、文章を書くことへの指導を行う。</li> <li>③基礎・基本の定着のために個人の習熟度に合わせたデジタルドリルを活用する。</li> <li>④児童一人ひとりの課題に即した指導を行う。</li> <li>⑤辞書引き学習の実施と言葉調べプリントを活用する。</li> <li>⑥教科書の教材と関連した並行読書を行う。</li> <li>⑦図形領域では具体物を活用した操作活動を取り入れる。</li> </ol>